

しおさい



発電所から見た物見崎

【主な内容】

- 特集記事「シリーズふるさと見聞録」：上田屋
- 「明日へのかけはし」：大和生生活改善グループ
- 「ファイト!わんぱく」：白糠ジュニアスターズ
- クローズアップ「こんにちは元気さん」：三國 立さん
- 「地元の特派員レポート」

蝦名 大和くん
小笠原 梢さん
東田 惣一さん



平成18年5月発行
東北電力(株)東通原子力発電所

東通村29の集落の特徴的風物や人物を探る！

上田屋

村内で最も歴史が古い集落

むつ市田名部から東へ約7キロ、青平(あべら)川の河岸段丘にある細長い集落が上田屋です。地域に沿って流れる川の名前にちなんで、村内の人々は「上田屋」のことを「青平」とも呼んでいます。

熊野神社には、青森県内で2番目に古い文明18年(1486)の棟札が残されており、室町時代には早くも集落が形成され、東通村では最も歴史が古い集落といわれています。

また上田屋は東通村の中でも大きな集落で、地区の産業は農業。昔は石高(こくだか)も多く、熊野神社では3月に祈年祭、9月に例大祭、11月に収穫感謝祭が行われています。

郷土芸能の能舞は「東の師匠」と呼ばれるほど熱心で、秋の例大祭では青年会を中心に能舞を奉納し、田屋 能舞の館では、次代を担う子どもたちにもしっかりと伝承されています。

電気が通る前から水車で発電

上田屋では村に電気が通る前から、青平川を利用して水車を回し、発電が行われていました。また水車は発電の他、水田に水を引いたり米を精米したり、そば粉を作るためにも利用され、現在もそば粉作りにこの水車を使っています。

秋になると水車に落ち葉が溜まって発電できなくなったこともあったそうですが、村に電気が通るまで、水車から生まれたあかりが地域を明るく灯していました。



上田屋の熊野神社



青平川へそそぐ大平滝



水車小屋の中にある粉挽きの杵と臼

上田屋を 訪ねて

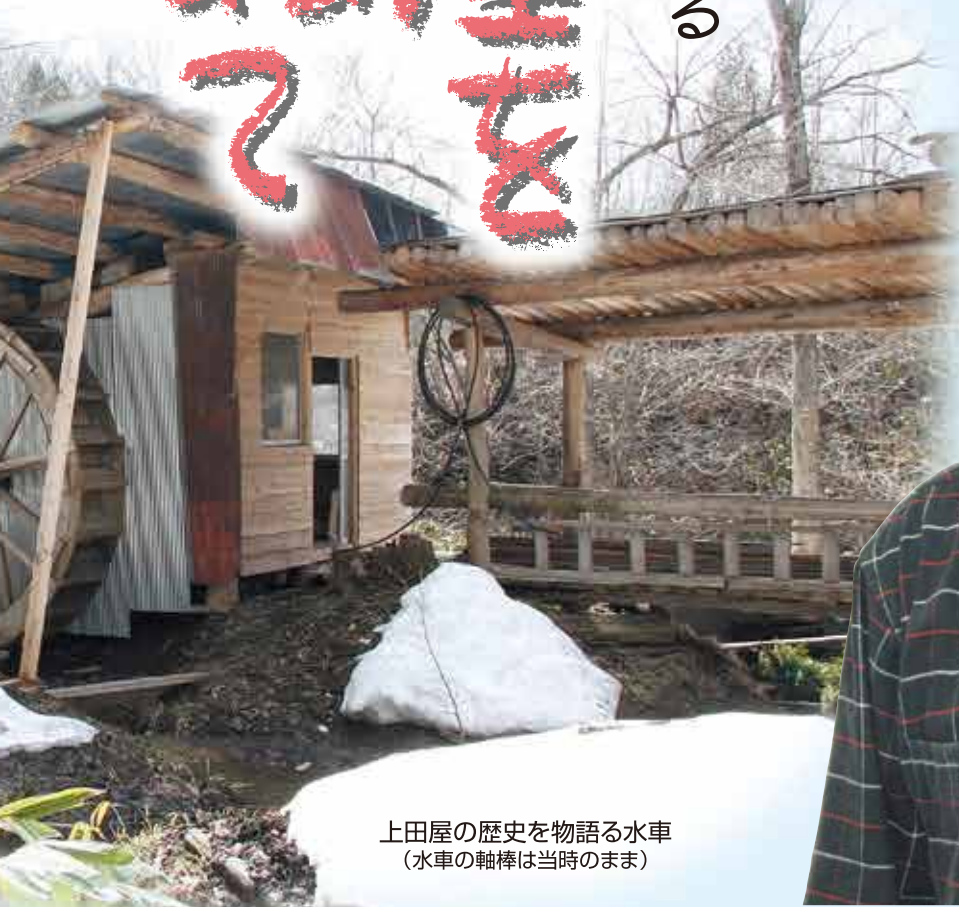
東通村で最も歴史が
古い集落と云われる

「上田屋の住民は元をただとほとんが親戚関係で、人情があり、とてもまとまりやすい地域です。これから互いに支え合いながら、より良い地域作りに励みたいと思います」と地区会長の室舘勇一さんは話します。

上田屋地区会長の
室舘勇一さん



上田屋の歴史を物語る水車
(水車の軸棒は当時のまま)



上田屋は昔から協力精神の強い地域。隣近所とても仲が良く、「よいがし」「よいがし」「よいがえし」といって、田植えでも何でも必ず応援に出ていました。子どもの頃は川に大きな水車があり、そこで発電して各家々に地域で独自に電気を送っていた時期もありました。元気の秘訣？それは天気の良い日は山へ行って、とにかく体を動かしているからだと思います。



今も現役で
水車を動かす
村田 義一さん(73歳)



大正生まれの
パワーがいっぱい
館 兼五郎さん(90歳)

水車は昭和初期、大工だった父(村田留太郎)が青平川にそそぐ大平滝の水を使い、田んぼに水を引くために作ったのが最初です。今の水車は7、8年前、米やそばなど粉を挽くため、私が父の造った水車の軸棒をそのまま利用し造りました。小学生の頃は水車の羽が上がって水をかぶりながらよく遊んだものです。川の上流には清流に棲むサクラマスやイワナがたくさんいます。これからも自然を大切に、自然の中で楽しく暮らしていきたいと思っています。

明日への かけはし

大利生活改善グループ

おいしいそば作りに笑顔の輪！

今から20年前、地域の暮らしを良くしようと結成された大利生活改善グループ。会員は40代から60代までの8人で、現在そば作りに取り組んでいます。そばはもちろん東通産で、自分たちが種から育てたそばを収穫、製粉。最初は粉だけを販売していましたが、そばに付加価値を付けようと10年前からは10割そばを作って販売。村で行われる「新そば街道まつ

り」で「大利のそばはコシが強く美味しい」と評判です。

そば作りは、こねる、伸ばす、切る、茹でる、洗う、盛りつける作業を、会員がそれぞれ分担して行います。「そばは、こねるところから茹でて盛りつけるまでひとつでもいい加減になると美味しくできないんです。みんながそれぞれの



美味しいおそばができましたよ



美人ぞろいの大利生活改善グループの皆さん

ながらそれぞれの工程で手を抜かず、きちんと仕事をするので大利の美味しいそばができるのです」と会長の中西富子さん。とにかくみんな和気あいあい「そばを販売する時、どんなに忙しくても笑顔は絶やさな

いことにしています。その方が、美味しいそばができるんですよ」と会員たちは話します。

今はイベントだけでそばを振る舞っていますが、中西会長は「今後は活動の拠点となっている大利ふるさと伝承館で、月に1回から2回、大利のそばを多くの人に食べてもらえる店を開きたいと考えています」。会員みんなの夢は、大きく広がっています。

会長の
中西 富子さん



ファイト! わんぱく

東通村白糠ジュニアスターズ

東通村白糠小学校の子どもたちで結成されている少年野球チーム「白糠ジュニアスターズ」。6年生の木村拓海キャプテンはじめ3年生から6年生まで20人の部員が、地域の方々の協力を得て、藤田万緑監督のもと、力いっぱい練習に励んでいます。

結成は昭和56年、地域の要望で誕生。初代監督は沢田要一校長が務めました。平成11年の全日本学童軟式野球大会では県大会で優勝、全国大会へ出場しています。またチームから

は甲子園出場者が4人も出ています。

練習の時は、児童のお父さんや地域の方々がキャッチボールからチーム練習まで熱心に指導します。



キャプテンの
木村拓海くん



木村キャプテンは「最初は怒られてばかりでしたが、試合で打つと気分がいいし、野球のおもしろさがだんだんわかってきました」。ピッチャーの柏村翔太君は「勝った時が一番うれしい。夢はプロ野球選手です」とキツバリ。

沢田校長と藤田監督は「子どもたちは野球を通じ一生懸命頑張ればできることを自然に体得しています。今後の活躍が楽しみです」と話していました。





元気さん

村民が主役の地域おこしを目指す

たつる
三國 立さん(43歳)



村内で元気に活動する人を紹介する
「コンニチハ元気さん」。1回目は東通村岩屋の
三國立さん(43)にインタビューしました。

昭和37年、東通村で生まれた三國さんは、田名部高校を卒業後、実家で祖父母が酒店を営んでいたこともあり、むつ市の酒屋で修行を始めます。その後、祖母が倒れると、教員をしていた父に「店をやれ」と言われ「やねばね〜」と跡を継ぐことに。そして村の商工会青年部に入ったことが、地域おこしに取り組みきっかけとなりました。

「まずは新潟県柏崎や宮城県女川など、原子力発電所先進地における商工会青年部との交流から始まりました。この時、様々な業種の人たちから話を聞き、立地されたからといって何もしなければ、地域は活性化されない。村を元気にするためには、まず自分たちが頑張らなければと思いました」と三國さん。

地元のふるさとまつりでは、応援委員会を立ち上げ、村民が自ら参加できるイベントにしようと尽力します。「村に住む多くの人から協力を得るため様々なことをしました。成功させようという強い思いがあったので、苦労は感じませんでしたね。逆にこの時、地域おこしのおもしろさを見いだした気がします」。

今は東風塾メンバーの一員として都市部との交流事業に取り組んでいます。

東通村のブランドを創ろうと昨年から取り組んでいるJAPANブランド育成支援事業「ひがしどおり海山喰(か)さまい創出プロジェクト」では、

酒部会の一員として蔵元とのパイプ役に徹しました。「地元の米、地元の水で本物の東通ブランドのお酒を造り販売したかったのです。月に一度、田んぼに足を運び稲の生長を見守ったり、ジユラ紀から沸く水を運んだり。試飲したとき端麗辛口な味に、ヤマセ地帯で採れた米でも、みんなが力を合わせればこんなに旨い酒ができることに感激しました」とっこり。

「売れる自信？もちろんあります。みんなが情



地酒づくり会議

熱を注いで造ったお酒だから。そして東通ブランドをつくることで村をもっと元気にしたいのです。今中国は日本酒ブーム。地域の人々に認めてもらったら、やがては世界へ向けて売り出したいと思います」と豊富を語ります。

いつも元気で、ユーモアたっぷりの三國さん。「様々な活動を通し、地域おこしは村に住むみんなが主役となって活動し、初めて成功するものだと思います。村のために自分がやれることをこれからも少しずつ続けるだけです」。村の将来を担う、底抜けに明るい笑顔が印象的でした。



2005都市部との交流事業「東通かさい市」in 蕨市(わらびし)



JAPANブランド「祈水」

東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

新しくなる両皇神社



僕は老部の両皇神社に行ってきました。なぜかと言うと、これから工事が始まるからです。面白そうだったので、調べてみました。

部落会長さんの家へ行って質問してみました。聞いてみたら、両皇神社は今から359年前の正保4年に初めて建て、今から269年前の天文2年に今の形に建て替えられたそうです。そんなに古い神社だとは知らなかったでビックリしました。

古くなったので、山形県の神社専門の大工さん8人で新しい神社に建て替えるそうです。神社の中は、たたみがあこされ

老部小学校(5年)
蝦名 大和くん(11歳)



てちょっとさみしい感じでした。これから解体して、6月から11月いっぱいまでかけて完成するそうです。神社の入口の上の方につく4つのシシ頭を工夫して作るそうです。

新しい4つのシシ頭がどんなふうになるのか楽しみです。新しい神社は200年以上たっても大丈夫なように青森県産のヒバ材を使って丈夫に作るそうです。僕は新しく建つ神社を見る事が出来てラッキーです。

僕は、今まで初もうでの時にしか行きませんでした。神社が新しくなったら友達と神社やうらにある石上公園で遊びたいと思いました。



シシ頭の彫刻



おばあちゃん憩いの場「寺っ」



お年寄りのみなさんと接する機会が多いので、今回特派員レポートさせていただくにあたり、小沢の元気なおばあちゃんたちを結集したいと思い、「寺っ」を訪ねました。「寺っ」の歴史は明治時代まで、不幸があった時に念仏をあげたため、女性たちが集まったことが始まりだそうです。現在は70歳から90歳のおばあちゃんたちが、天気のよい休日や週末に集まっています。そこは、念仏はもちろん流行の歌を練習したり、みんなで持ち寄ったご飯を食べながら、花札や世間話をして楽しむ憩いの場になっています。



おばあちゃん着物

今回の達人は

むつグランドホテル
洋食総料理長

はまもと とよのぶ
濱本 豊延さん



●プロフィール

函館市出身。東京の雪印乳業外食部門をはじめ大和ロイヤルホテルズのシェフとして全国を回り、5年前からむつグランドホテル洋食総料理長に。むつ湾でとれた美味しい魚を使った料理が自慢。55歳。

ほうれん草とソーセージのグラタン(4人分)

手軽な素材でもオシャレ感覚にできる

〈材料〉(4人分)

ほうれん草/2束、ソーセージ/8本、生クリーム/540cc、にんにく/1かけ、バター/20g、粉チーズ/30g、塩、コショウ/少々、ビーフコンソメ顆粒の素/少々

〈作り方〉

- ①ほうれん草は、ややかため(6割程)に茹で、ソーセージは小口切りにします。
- ②生クリームを、2/3になるくらい煮詰めておきます。
- ③にんにくとソーセージをバターで炒め、更にほうれん草を加えて炒めます。にんにくは香りが付いたら取り出します。
- ④③に煮詰めておいた生クリームを加え、塩コショウ、ビーフコンソメを加えて味を調えます。
- ⑤グラタン皿に④を流し入れ、粉チーズをふりかけてから180℃のオーブンで12分焼けば出来上がり。



達人のワザ

生クリームを煮詰めて使うと、ホワイトソースを作らなくても濃厚な味のグラタンが出来ますよ。



写真は特派員が自ら撮影したものです。



東通村白糠在住
東田 惣一さん(69歳)

今なお現役



魚を釣り上げた時の醍醐味は何ともいえず「おもしろい」と話し、「これから体の続く限り漁に出たい」と、とても元気です。83歳を過ぎても今なお元気で働く沢頭さん。自分も「年だから」と言わず、もっと頑張らなければと思いました。



今日の釣果

漁師歴70年、今なお現役で漁に出る白糠漁協の沢頭三平さん(83)は、今日も荒波の中に消えて行きました。沢頭さんが機関士になったのは23歳、自分の船(小型船)を持ったのは48歳の時。昔は今よりもたくさん魚が捕れ、わかめ、うに、あわび、こんぶなど磯資源も豊富で、大漁が続いたそうです。また、昔の漁師は「ヤマ」をかけて漁をしましたが、今は機械で操作するため、沢頭さんは横文字が読めず大変ですが、体はまだまだ大丈夫!1月から3月まではマス釣り、4月は小女子、5月から11月まではヒラメを釣りに行くそうです。

達のこ

福祉施設に勤めている私は、仕事柄、社会が体を田野紹介した。遡る治の!

東通村介護老人保険施設
野花菖蒲の里勤務
小笠原 梢さん(27歳)

お話を伺っていると、小田野沢小学校との交流もあったようで、お手玉を作って昔遊びを教えるなど、子どもたちとふれ合うことが「とても楽しみだ」と話していました。実際にお手玉遊びを拝見しましたが、みなさんとても生き生きしていて、一緒にいた私まで楽しくなりました。



あちゃん達の作った
を着る石地蔵

る 簡 単 料 理

地元素材を使った栄養満点の簡単料理
東通牛バラ肉と大根の含め煮(4人分)

〈材料〉(4人分)

牛バラ肉/800g、大根/500g、きぬさや/8本、鶏ガラスープの素/適量、塩、コショウ/適量、水/2ℓ

〈作り方〉

- ①牛バラ肉は大きめに切っておきます。大根は半月切りにし、ややかため(6割程)に下茹でしておきます。きぬさやも茹でておきます。
- ②鍋にたっぷりのお湯をはり、生の牛肉を入れて火にかけます。沸騰したらザルに上げて湯切りし、再びお湯を加えてアク抜きをします。
- ③3度目に2ℓの湯の中に肉を戻し、弱火で30分程煮込みます。
- ④③の中に大根と鶏ガラスープを加え、更に20分程煮ます。
- ⑤肉が柔らかくなったら、塩コショウで味を調えます。
- ⑥器に盛り、きぬさやを飾り、熱いうちにスープと一緒にいただきます。

達人のウザ

牛肉は好みの大きさに切り、弱火でゆっくり、柔らかくなるまで煮込むのがポイントです。



クイズ なるほど「ザ・方言」

地元の皆さんは
すぐわかるよね

問題

■ 東通村（下北地方）には、いろいろな方言が残っているよ。

右記の①～④までの方言を考えてネ。

○に入る言葉を並べかえると、東通村のある
集落名になるよ。

さて、どこでしょう？

① 教える、知らせるの意味の方言

○ か ○ ○

② 傾く、傾ける

○ ○ が ○

③ ぽかぽかと暖かい様子

○ ぐ ○

④ やたらと夢中になること

○ ん ○



応募方法

★ハガキにクイズの答え、氏名、年齢、住所、電話番号そして当広報誌「しおさい」についてのご意見、ご感想をお書きの上、下記の宛先までお送りください。正解者の中から抽選で10名様へ素敵な景品をプレゼントいたします。なお、当選者の発表は景品の発送をもってかえさせていただきます。

〈応募締め切り／7月10日（月）消印有効〉

編集後記

東通原子力発電所1号機の建設当時は、建設工事の状況や村内の情報などを皆さまにお伝えするための広報誌として「つちおと」を発行してまいりましたが、この度、営業運転開始を機に、新しい広報誌「しおさい」を発行させていただくこととなりました。

この広報誌「しおさい」は、東通村の素晴らしさを再発見・再認識し、村民の皆さまと共有したいという思いを込めて作成してまいりたいと考えております。

今後とも、広報誌「しおさい」をご愛読くださいますようよろしくお願い申し上げます。



お知らせ

今後の誌面づくりの参考にさせていただくために、当広報誌に関するご意見やご感想をお寄せください。

また、皆さまから、各集落のあまり知られていない珍しいものや不思議なもの、取り上げてもらいたい団体やサークル、村内で元気に活動している方などの情報をお待ちしております。

個人情報の 取扱いについて

ご応募などの際にご記入いただきましたお客さまの個人情報は、クイズに関する景品発送やご意見・ご感想のコーナーへの掲載のみとし、他の目的では使用いたしません。

●発行／クイズ・ご意見・ご感想等の宛先

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前板下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について

東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音（しおさい）のように、皆さまの心に末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。



この冊子は、環境にやさしい「植物性大豆油インキ」
「古紙配合率100%再生紙」を使用しています。